



# 「美野里ともいきプラザ」小美玉市社会福祉協議会



小美玉市社会福祉協議会の岡崎啓将さんと石塚文子さん。

「美野里ともいきプラザ」は、「高齢者の生きがい支援」「軽度障がい者の自立支援」「子育て支援」を目的に、全ての人が生きて暮らすことを願って、平成17年に小美玉市社会福祉協議会が開設した施設

です。公民館や集会所で実施しているサロンはありますが、独立した複合型サロンの運営は小美玉市社協でも初の試みということです。「地域の中に、高齢者や障がい者が共に行ける場所が欲しい」ということは、保健師、地域ケアコーディネーター、社協の職員から常に出ていました。地元企業の経営者が所有していた貸店舗を無償で利用していいという話があり、ともいきプラザが設立されました。その後、県社協にも補助していただき複合型サロンを立ち上げました」と小美玉市社協の石塚文子さん。当時近くにあったスーパーが閉店し、買い物に困った高齢者のために、お惣菜を販売することからスタートしました。

## ●気軽に利用できる交流の場を提供

建物の1階には、昨年リニューアルしたランチ&カフェ「木もれ陽」があります。地元の食材を使用し、安心安全にこだわったメニューが人気です。隣接する手づくり工房「わくわくショップ」は、地元の作家や福祉作業所など10団体の作品を展示販売しています。



ランチ&カフェ「木もれ陽」は、社協直営レストラン。地元の素材を使ったメニューは全19品。



多目的ホールはイベントなどに使用されています。2階の生きがい

手づくり工房「わくわくショップ」は、フラワーアレンジメント、アクセサリー、お菓子など地域の皆さんの手づくり。

デイサービスでは、利用者と同世代の3級ヘルパー資格取得者で結成したボランティア「サンヘルともいき」の会員が指導員として活動しています。「サンヘル」という名称は3級ヘルパーに由来しているそうです。2階テラスの子育て広場は、就学前のお子さんとお母さんを対象にした交流スペースで、保育士の資格を持った育児ボランティアとサンヘルスタッフが対応しています。



子育て広場は土日の午前中に開催しています。

## ●イベントを開催し利用者を拡大



生きがいデイサービスでは、指先を使って脳を活性化。

1階フロアでは、毎月1~2回のイベントを開催。血压測定会、写真展、ジャズコンサート、昭和の歌声喫茶などが好評で、利用者も増加しています。「オープン当初は、

社協がやっているの、福祉施設だと思われていました。入ってみて使ってみると、食事もおいしいし、販売している作品のクオリティも高い。利用者の評判は上々です。まずは、知って、来て、楽しんで、リピーターになっていただきたいので、様々なイベントを企画しています。小美玉市の玄関口でもある羽鳥駅前ににぎわいを持たせたいという意味でも運営に力を入れています」と小美玉市社協の岡崎啓将さんは話していました。

## ●みんなが集う「たまりば」に育てたい

「ともいき」という名称は、前筑波学院大学学長の門脇厚司先生が名付け親で、高齢の方も障がいがある方も、いろいろな方が集い共に生きるたまり場にしていこうということがコンセプトなのだそうです。高齢者や会社員、高校生、お子さん連れのお母さんなど、訪れる人は様々でした。「美野里ともいきプラザ」は、みんなが集うたまり場として、地域に根づいてきています。

